

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為にNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 竹政伊知朗・札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科・教授）

研究要旨

「欧州のがん登録状況と本邦への導入に関する考察」について欧州におけるがん登録の現状を把握し今後の展望に関して検討した。欧州におけるがん登録体制としてEURO COURSEプロジェクトが計画され、その結果ECO が開発された。ウェブサイトによる各種がん罹患率、死亡率やEU国間比較など包括的ながん情報を提供していた。

A. 研究目的

欧州におけるがん登録と臨床研究の関係について現状を把握・整理し、今後の本邦への導入に関して検討する。

B. 研究方法

- ①世界（国際機関、米国、欧州）のがん登録を調査・比較した。
- ②欧州におけるがん登録体制としてEURO COURSEプロジェクトについて調査した。

C. 研究結果

①国際機関としては、1966年に国際がん登録学会（International Association of Cancer Registries; IACR）が設立した。2017年8月現在、529の国と地域が参加している。主な事業としては、「5大陸のがん罹患（C15）」刊行が挙げられた。米国では、1971年に米国がん法が制定され、1973年からNational Cancer Institute（NCI）によるSurveillance, Epidemiology, and End Results Program（SEER計画）が始まった。最新で18州の州がん登録の参加を得て全米人口の約30%をカバーする人口単位のがん登録情報を、非特定化データ（de-identified data）で収集し、比較的簡易な手続きで一般に提供している。一方欧州では、EU政府が1989年のがん対策を策定し、欧州がん登録ネットワーク（European Network of Cancer Registries; ENCR）が組織され、がん登録が始まった。現在ENCRには41ヶ国が参加している。その主な事業としてEURO COURSEとEURO CAREが挙げられた。

②EURO COURSEプロジェクトの資金源はEUの政策執行機関であるEC（European Commission）である。そのプロジェクトの一環として、国際がん研究所（IARC）の協力のもとEuropean Cancer Observatory（ECO）が開発された。ECOでは、EUREG（registry）、EUCAN（national estimates）、EURO CIM（downloadable data）といった3つのウェブサイト登録データの公開や利活用を図っている。

D. 考察

EUREGにおいてはICD10に準拠した疾患分類を行い、欧州32ヶ国の国別罹患率、死亡率、生存率などが、ウェブ上で比較可能となっている。EUCANにおいては、24がん腫の国別罹患率、死亡率の国間比較が可能となっている。欧州40ヶ国、EU27ヶ国が登録されている。EURO CIMにおいては、罹患率、死亡率などデータセットの作成と抽出が、ダウンロードにより可能となるが、現在作成段階にあった。

E. 結論

代表的プロジェクトとしてEURO COURSE、が挙げられた。ECOが開発され、EUREG、EUCAN、EURO CIMの各ウェブサイト、各種がん罹患率、死亡率やEU国間比較など、包括的ながん情報を提供していた。

G. 研究発表

1. 論文発表：

- ①Hata T, Takemasa I, Takahashi H, Haraguchi N, Nishinura J, Hata T, Mizushima T, Doki Y and Mori M. Downregulation of serum metabolite GTA-446 as a novel potential marker for early detection of colorectal cancer. Br J Cancer. 2017 Jul 11;117:227-232.
- ②Miyake Y, Nishimura J, Kato T, Ikeda M, Tsujie M, Hata T, Takemasa I, Mizushima T, Yamamoto H, Sekimoto M, Nezu R, Doki Y, Mori M; Multi-center Clinical Study Group of Osaka, Colorectal Cancer Treatment Group (MCSGO). Phase III trial comparing UFT + PSK to UFT + LV in stage IIB, III colorectal cancer (MCSGO-CCTG). Surg Today. 2017 Jun 20.

| | |
|--|--|
| <p>③Sato Y, Ohnuma H, Nobuoka T, Hirakawa M, Sagawa T, Fujikawa K, Takahashi Y, Shinya M, Katsuki S, Takahashi M, Maeda M, Okagawa Y, Naoki U, Kikuch S, Okamoto K, Miyamoto H, Shimada M, <u>Takemasa I</u>, Kato J, Takayama T. Conversion therapy for inoperable advanced gastric cancer patients by docetaxel, cisplatin, and S-1 (DCS) chemotherapy: a multi-institutional retrospective study. Gastric Cancer. 2017 May;20(3):517-526.</p> <p>④Yasui M, Ikeda M, Miyake M, Ide Y, Okuyama M, Shingai T, Kitani K, Ikenaga M, Hasegawa J, Akamatsu H, Murata K, Takemasa I, Mizushima T, Yamamoto H, Sekimoto M, Nezu R, Doki Y, Mori M; Clinical Study Group of Osaka University (CSGO), Colorectal Group. Comparison of bleeding risks related to venous thromboembolism prophylaxis in laparoscopic vs open colorectal cancer surgery: a multicenter study in Japanese patients. Am J Surg. 2017 Jan;213(1):43-49.</p> <p>2. 学会発表：なし</p> | <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特許取得：なし 2. 実用新案登録：なし 3. その他：なし |
|--|--|